

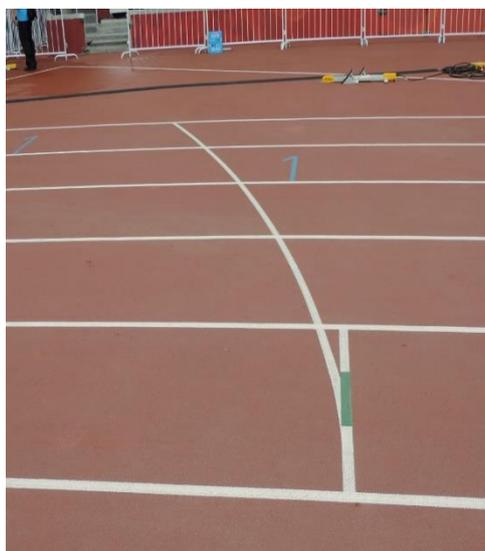
## 障害物競走等、グループスタートにおける代用縁石の置き方について(修正)

国内の競技場ではグループスタート時、代用縁石を(縁石とみなして)置いている。そして、グループスタート時の外側のトラックの計測は縁石の外縁から 300mm の所で行っている。そのために、国内の競技場の 10000m における第 2 グループのスタートラインは直線の長さにも関係するが(5 レーンの)800m のスタートラインの前方に引かれている(図 1 参照)。

一方、海外の競技場の第 2 グループのスタートラインは(5 レーンの)800m のスタートラインと重なる所から引かれている。これは内側のライン外側から 200mm の所でトラックの計測を行っているためである(図 2 参照)。



国内競技場における第 2 グループのスタートライン【図 1】



海外競技場における第 2 グループのスタートライン【図 2】



全線に設置した代用縁石【図 3】

厳格に言えば国内競技会において代用縁石を設置する際は、競技規則に則れば全線に置く必要がある(図 3 参照)。

しかしながら、競技場保有の代用縁石の数が足りなければ、1 本おきに置かざるを得ない。なお、現在の競技場の検定では全線に設置できる数があることを確認しており、不足する事象は数年で解消の見込みである。また、国内で実施する国際大会においては全線設置を基本としてレースがスタートした後は速やかにすべての代用縁石を撤去することとなる。グループスタートのレースが複数組ある場合もレースごとに並べることが望ましい。

グループスタートする際に第 2 グループのスタートラインからすぐに代用縁石を設置すると、第 1 グループの外側の競技者が代用縁石につまづくことがある。そのため、第 2 グループのスタートラインから 8m 程度は縁石を設置せず、コーンをスタートライン、代用縁石のはじめ、中間に設置することを原則とする(コーンの間隔は 4m 以内)。なお、出場競技者が多い場合は、スタートから 10m 程度から代用縁石を並べる(10m の時にはコーンは 4 本置く)。第 1 グループからスタートする(特に外側の)競技者はコーンの間を通ることができる。代用縁石に代わりコーンを設置していることをあらかじめ競技者に伝えておくとよい。

### 【その他新設コラム一覧】

- 「日本新記録誕生！」をアナウンスするタイミング(新設)
- 現場での抗議(競技中の抗議)があった際の手順について(新設)
- 2ピットでの粘土板の交換の仕方(新設)
- 競技を終えた競技者の退場の仕方(新設)
- 落としたメガネの扱い方(新設)